

テレワーク導入にあたる留意点とICT環境設備の4つのポイント



ここ数年、多様な働き方を実現する効果的な手段として注目されてきたテレワーク。今般のコロナ禍を機に導入が急速に進んでいますが、導入の意思はあっても、ICT環境の不安やコスト面の課題など、さまざまな要因から導入に踏み切れない企業も少なくないようです。

当社QTnetにおけるテレワークの実施内容について、導入・運営を担当する当社情報戦略システム部の早川と西本をご紹介します。当社の導入事例を通して、テレワーク導入に際しての留意点やICT環境整備の要点をお伝えできればと思います。



QTnet
情報戦略システム部
早川 隆宏



QTnet
情報戦略システム部
西本 晃

テレワークに「公式」はない企業の数だけ「正解」がある

よく知られているように、テレワークの手法には多様な形態があります。オフィスの端末や仮想デスクトップを遠隔操作する方式や、アプリを使用してリモートアクセスする方式、社用PCを社外に持ち出す方式等々、それぞれにメリットとデメリットがあり、一概に優劣はつけられません。導入に際しては、業種・業態、テレワークの対象となる従業員数、予算など、個別企業の状況に応じてよく検討したうえで、最適な方式を選ぶことが必要です。テレワークの手法に公式はなく、企業の数だけ正解がある、とも言えるでしょう。

とはいえ、どんな方式を選ぶかにかかわらず、環境整備に関して留意すべき共通点はいくつか挙げられます。優先度が高い項目をまとめると、

①セキュリティ対策を具備した処理性能のあるPC端末や仮想端末等

- ②VPN接続やリモートアクセスなど、セキュアな社内ネットワークインフラの構築
- ③スマホ（テザリング）やWi-Fiルーターなどのリモートアクセスするための回線の確保
- ④WEB会議やビジネスチャットなどのコミュニケーションツール

の4点に集約されるかと思います。以上を踏まえて、当社の取り組みについてお話しします。

①セキュリティ対策を具備した処理性能のあるPC端末や仮想端末等

当社では新型コロナウイルスの感染拡大、特に在宅勤務の推進を契機にテレワークを導入しました。環境整備には重要な一環の整備を早く対応した結果が現在効果となり、生産性を高めることとなり、さまざまな課題は前と同等に速く業務をやり遂げることができました。

導入したテレワーク環境は、業務が通常の働き方を効率的に持ち帰る方式です。

製造現場に携わっている場合は、まず高機能なスマートフォンやセキュアなVPN接続環境、クラウドサーバーなど、セキュアな環境を整えなくては、業務遂行の基となる環境、十分な容量のメモリを確保するなど、高スペックなPCを最低限に確保、実行してVPN接続でセキュアに社内環境にアクセスする環境を整えました。テレワーク環境で課題になりがちな業務の効率化やコミュニケーションは、チャットやファイル共有もできるWEB会議ツールで確保、さらに当社では、遠隔テレワークをスムーズに実施することができました。

②VPN接続やリモートアクセスなど、セキュアな社内ネットワークインフラの構築

社内のネットワーク環境の構築は、一環一環にはできません。

当社では多様なワークスタイルを実現する手段として早くからテレワークに導入し、2019年には新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、仮想デスクトップ方式によるテレワークを段階的にスタートさせました。当初は問題ありましたが、2020年

ごろから徐々に業務遂行の効率低下が深刻化になってきました。こうした背景もあり、2020年には急激な働き方変革に向けてICT環境を根本的に見直すことになりました。

従来はVPN接続をオンプレミスで構築していたため、環境の増強は容易ではなく、増強した業務設備の更新にも多額のコストを要します。一方、クラウドサーバーを活用すれば、必要に応じて柔軟な増強が可能です。保守費等の運用費が削減されます。また、セキュリティ対策の観点からも、オンプレミス型で業務が実施された場合、自分たちで環境に対応することが必要となり、クラウド型の場合は、クラウド事業者が、必要な対応を実施します。オンプレミス型からクラウド型へ、クラウドに業務を移行しても、どのような方式が現在の業務にマッチするのかわかるようになるべく、情報戦略システム部（以下、情報）では九州各地をはじめ全国や海外にも出張し、ハンズオンでテレワークを導入している企業の事例を調査・研究しました。

研究事例も参考にしつつ、当社にとってベストな環境構築に向けて検討を重ねてきた結果、製造現場の業務による端末持ち出し防止というわけでは、

「いつでも、どこでも、誰にでも」つなぐことで業務を遂行して

2020年から進めてきたICT環境の刷新の第一歩は、「いつでも、どこでも、誰にでも」快適につなぐ環境を実現することになりました。業務の効率化になったのは、クラウド型への導入です。セッションや映像データの増強に柔軟に対応できるため、工場現場の電力確保など、地所も広めた幅広いインフラ構築が可能になります。また新機種の端末の中でも採用できるなど、設備の安定した信頼性も大きなメリットです。当初、急激なテレワーク導入は想定外でしたが、結果的に、クラウド型への移行によって業務が実現できま

QTnetのテレワーク導入事例



した。オンプレミス型の場合、遠隔アクセスによる設備使用量の増大に懸念できなかったかもしれません。

また、このテレワーク導入の際、社内に対するセキュリティ対策が課題にのぼることがありますが、当社では、接続の通信方式がクラウド型への移行することで、信頼性が向上し、セキュアな環境を構築しています。

このように、地所も広めた多様なワークスタイルへの対応を要した結果、電力の確保が、2020年以降に発生、今後の製造現場へのスムーズな対応につながりました。

テレワークの設備導入はできることから確実に

当社テレワーク環境中、最も早く導入されたのは、社員間のコミュニケーション手段の確保です。当初では、WEB会議ツールを優先し、端末に携わることから先に進んでい

ました。テレワーク導入の際には、遠隔アクセスによる設備使用量の増大に懸念できなかったかもしれません。

また、このテレワーク導入の際、社内に対するセキュリティ対策が課題にのぼることがありますが、当社では、接続の通信方式がクラウド型への移行することで、信頼性が向上し、セキュアな環境を構築しています。

このように、地所も広めた多様なワークスタイルへの対応を要した結果、電力の確保が、2020年以降に発生、今後の製造現場へのスムーズな対応につながりました。

当社テレワーク環境中、最も早く導入されたのは、社員間のコミュニケーション手段の確保です。当初では、WEB会議ツールを優先し、端末に携わることから先に進んでい